

ON AIR

NO. 118

放送大学通信 オン・エア

発行月 2015年6月

発行 放送大学

〒261-8586 千葉市美浜区若葉2-11
043-276-5111(総合受付)

CONTENTS

学位記授与式	1
就任のごあいさつ	7
学習センター所長座談会	8
第7回エッセイコンテスト	12
研究室だより	14
学習センターだより	15
2015年度開設・改訂科目紹介	16
インフォメーション	20

学位記授与式が行われました

2015年3月21日、2014年度学位記授与式がNHKホールにおいて挙行されました。赤池誠章文部科学大臣政務官、渡辺克也総務省大臣官房審議官をはじめとするご来賓の方々のご臨席のもと、岡部洋一学長から卒業生・修了生に卒業証書・学位記が授与された後、学長が式辞を、卒業生・修了生の代表が謝辞を述べました。

さらに、名誉学生の方々の表彰、「放送大学優秀授業賞」を受賞された島内裕子教授の表彰、最後は、学長指揮による学歌斉唱で2014年度の学位授与式は幕を閉じました。

学長式辞 学長 岡部 洋一

本日、めでたく卒業を迎えられた卒業生の皆さん、また修士論文をまとめられ、修士課程を修了された皆さん、ご卒業おめでとうございます。本学の教職員を代表して、心からお喜び申し上げます。また、皆さんをずっと支えてこられたご家族、友人の方々も多数お見えかと存じます。どうか、皆さん全員で卒業の喜びを分かち合っていたいただきたいと思います。

また、本日は、文部科学大臣政務官、総務省大臣官房審議官を始め、多数の来賓の方々をお迎えし、かくも盛大な学位授与式を挙行できました。誠にこの上ない喜びであります。卒業にあたり、常々申し上げている三つの言葉を申し上げます。

第一に、めでたくゴールまで到達された「自分を褒めてやっていただきたい」と思います。本学は、開かれた大学として広く全国のどこでも学習できる



よう、講義の約80%を放送授業により受講することができます。また、残る約20%のface-to-faceによる面接講義の受講、学期末の単位認定試験についても、幕張にある本部に来ることなく、全国各都道府県に最低1箇所、計57箇所に設置された学習センターなどで行われるように、当初より設計されており、そ



岡部 洋一 放送大学長



学長と理事長を交えて来賓と総代の方々



のため、いつでもどこでも比較的容易に勉学ができるという特長を持っています。

しかし、仕事や家事との関係で面接授業や試験を受けられなかったといった話もたびたび見聞きしています。また、北海道のような広い地域、島嶼部のような地域では学習センターまで出向くのに大変な時間や経費を必要とします。本学には一般大学に比べ障がいのある人も多数入学されています。また、職場や家庭といった周囲からの理解が得られず、苦勞された人の話も伺っております。また、高齢にも関わらず勉学を続けていらっしゃる方もいらっしゃいます。今年度の最高齢の卒業生は北海道学習センター所属の97歳の方で、今回再卒業後、さらに再入学され、100歳に再卒業を目指されると伺っております。こうしたそれぞれの難関を乗り越えて本日の卒業にまで至られましたことに、本日は改めて敬意を表すると共に、ぜひ、皆さん自身で、自分を褒めてやっていただきたいと思ひます。また、ご家族や友人の方もぜひ、一緒に喜びを分けあっていただき



たいと思ひます。

第二に、皆さんにはぜひ「本学の卒業生であることに、誇りを持っていただきたい」ということです。本学は、学力試験を課さない誰にでも開かれた稀有な大学でもあります。入試がないこと、さらに、通信制大学だから丁寧な教育が得られず、ゆえに通学制と比べて十分ではないと誤解されることが多いかと思ひます。ここに居られる皆さんの中にもそう思われている方がおられるかも知れません。しかし、そんなことは無いと断言できます。まずは、大部分の方が、自分の意志で勉学をしようとして入学され、さらに自分で学費を支払っていることなどから、学習意欲が極めて高いのです。面接講義をお願いしている他大学の先生方が、教室の熱意と学生からの発言の多さに驚かれることから、このことはわかると思ひます。意欲が高ければ到達度も高くなります。

また、放送授業を受け持たれている専任教員や客員教員はいずれも著名な先生であり、常に教育の質を意識されています。そもそも、授業内容が放送されているということから、専門家の目にも常にさらされているので、よい緊張を持って制作しております。各学習センターで面接授業を受け持たれている先生方も、それぞれの地域の重鎮の方が多く、同じく高い教育の質を保っております。さらに単位認定試験は非常に厳格です。入口は誰にでも開かれているが出口は厳しい大学なのです。そういう大学であることを改めて認識いただき、誇りを持っていただきたいと思ひます。

第三に、「本学で取得した知識や手法を、いろいろな局面で生かしていただきたい」。本学を卒業された後も考察力や実行力を研鑽しつつ、社会に尽くしていただきたいと思ひます。

本学においても、これまでの知識伝達型の教育に加え、2015年度から開講されるオンライン授業などを利用して双方向によるよりアクティブな学習環境の充実を進め、これから本学で学ぶ学生が、さらに社会で活躍するための考察力や実行力を修得できるよう努力していきます。

私が学生時代に指導を受けた恩師から受けた言葉を皆さんに贈りたいと思います。それは「どこまでを理解しているかを確実に知り、その限界を常に広げるようにしなさい」というものです。これは学問の世界だけでなく、職場でも日頃の生活でも重要な

言葉だと感じております。放送大学では少なくとも、限界の広げ方は学べたかと思います。まずは自分をわきまえること、さらに、限界を広げようという向上心を常に持つことがいずれの世界でも、自分を高めていき、正に世のため、人のためになることだと思います。

本学に在籍したことにより、力強く生きるすべ、したたかに生きるすべを得たのだ、それを力に他人に優しい、包容力のある人間になっていただきたいと念じて、改めて、おめでとうを申し上げ式辞と致します。

謝辞

教養学部卒業生代表
社会と産業コース 高嶋 熙和

本日は、私達卒業生のために、お忙しい中ご来賓の皆様方や多くの先生方にお越しいただき、盛大かつ厳粛な式典を挙げていただけたことに、深く感謝申し上げます。このように、私達が今日の日を迎えることができましたのも、諸先生方のお導きのおかげと感謝の気持ちで一杯です。また、日々の学習を側面から支えて下さいました学習センター、附属図書館、そして大学事務局などの職員の皆様方に、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

私事で恐縮ですが、私は「学校へ行く事が仕事」の小学生の頃は学校があまり好きではありませんでした。母が作ってくれた好物の「卵焼き」が入ったお弁当に釣られて通学していた思い出があります。

それから半世紀が過ぎて、八十八歳の母が認知症になったことから長年のサラリーマン生活に終止符を打ちました。

その母も亡くなって、以前から考えていた「学校へ行く事が仕事」をするため、放送大学に入学することを選択しました。

放送大学入学後は、広大で自然にあふれた北海道大学構内にある、北海道学習センターで、四季の移ろいを感じながら勉強することができました。お弁当の製造者が半世紀前の母から妻に変わりましたが、「卵焼き」の入ったお弁当を食べるのを楽しみに学校へ通うのは昔と同じでした。

放送大学の大部分の学生が、多くの困難を克服して働किながら学んでいる中であって「学校へ行く事が仕事」を

することができた私は大変恵まれていると思います。

還暦もとうに過ぎて頭も十分に錆び付いており、理解できないことも数多くありました。孫とさほど年齢差のない北大生に数学を教えてもらったことや、教科書を何度読み返しても理解でき



ず先生にメールで質問をして丁寧な回答をいただき、モヤモヤしていたものが一瞬で消え去ったこともありました。また、卒業研究は手続きも含めると、その前年からスタートする事も理解せずにのんびりとしていた私に、心構えや留意すべき点などについて、的確なアドバイスしてくれた先輩学生・同僚学生の存在も忘れることはできません。

乗り越えるべきハードルはいくつもりましたが、結果として多くの達成感を味わうことができ、人生でこれまでにない幸せで充実した時間を過ごすことができました。ご承知のように放送大学は入学試験もなく、学ぶ気持ちがあれば誰でも入学できる開かれた大学です。

しかし、単位認定試験に合格しない場合は補習で救われることもなく、卒業するためには狭き門を通らなければなりません。

厳しいところもありますが、地道に努力を続ける学生にとっては思う存分学ぶことができる優しい大学だと思うのです。私は、このようにすばらしい大学で学ぶことができましたこと、そして卒業できましたことを誇りに思います。最後に、お世話になりました多くの皆様方に改めてお礼申し上げます、謝辞とさせていただきます。

謝辞

修了生代表
生活健康科学プログラム 小島 さやか

柔らかな日差しに花の蕾も膨らみ始め春の訪れを感じるこの佳き日に、私達の為にこのように盛大な式典を挙げて頂き誠に有り難うございます。ご臨席を賜りました諸先生方、来賓各位、ご出席下さった皆様に、修了生一同心より御礼申し上げます。

放送大学との出会いは私がまだナースの卵だった十八年前、出来たばかりの新潟学習センターに通い始めたのがきっかけです。就職してからは仕事や家事の合間の細切れの時間で学ぶ日々でした。その間同じく看護職の夫と結婚、三人の子宝に恵まれ、夫婦共に交替勤務をこなしながら綱渡りの子育てが十年以上続きました。

三人目の子を出産した時の事です。私が何気なく「パパも育児休暇が取れたらいいのにな」と呟くと普段は子育てに協力的な優しい夫が「男が育児を理由に仕事を休むなんて言えば首を切られるよ」と答えました。それが私の人生を変える一言になりました。

その後縁あって大学教員に転身した私は、夫の様に仕事に子育てに奮闘している男性看護師の思いを知りたい、夫婦が協同して子育てに関われる世の中にしたい、そんな気持ちで大学院進学を決意し、研究課題を子育て中の男性看護師のワーク・ライフ・バランスの現状と課題として取り組んで参りました。幕張に通った二年間はまるで第二の青春時代のようなものでした。先生方は学問の奥深さを時に優しく時に厳しく愛情一杯に教え導いて下さいました。

全国各地から集まる年齢も職業も生活背景も違う仲間との議論はいつも新鮮で刺激的で、そんなゼミ仲間と研

究や仕事、将来の夢等、時間が経つのも忘れて語り合った時間はこの上なく贅沢なものでした。

調査には四百四十七名もの男性看護師の協力を得ることが出来ましたが、新しい知見を導き出す過程は常に自分との熾烈な闘いでした。調査結果が

表す真実を読み解こうと試行錯誤する日々に葛藤し、打ちのめされそうな時もありました。

その中で前に進む原動力になったのは「あなたならできる、大丈夫!」と可能性を何十倍にも引き出して下さった先生や切磋琢磨する仲間の存在です。先生やゼミ仲間と交わしたメールは数百通になりました。

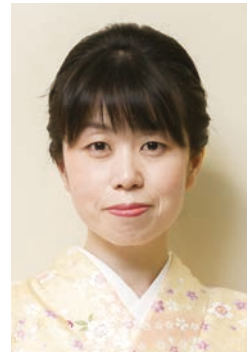
また仕事と家事育児に追われる私を見て、小学生の娘と息子はアンケートの袋詰め等夏休みを返上して手伝ってくれましたし、夫には男性看護師の立場から沢山の助言を貰いました。この研究が家族の絆も深めたような気がしています。

今、私には新たな夢が出来ました。調査研究を通して知った男性看護師の思いを活かして、より働きやすい職場作りや看護職が自分らしく生き生きと過ごせる為の支援をライフワークとして取組みたいと決意を新たにしております。

放送大学の学歌には「知は力よりよい生を拓くため」という歌詞があります。知は力。私たち修了生は知を積み重ね究める者として持てる力を最大限に発揮して社会を支えていく責務があります。放送大学で学んだことを誇りに思いその学びをより広く深く社会へ還元していく為に今後とも精進して参ります。

最後になりますが、今日までご指導下さった諸先生方、ティーチングアシスタントさん、共に学生生活を過ごした皆さん、大学職員の皆様、研究にご協力頂いた方々に改めて御礼申し上げますと共に、いつも私達を心身両面から支えてくれる大切な家族に感謝します。

そして放送大学の更なるご発展とご臨席の皆様のご健勝と益々のご活躍をお祈り致しまして謝辞とさせていただきます。



卒業・修了祝賀パーティーが 開催されました



NHKホールでの学位記授与式の後、場所を移動してホテルニューオータニ、鶴の間にて、卒業・修了祝賀パーティーが催されました。

パーティーは、岡部学長と矢野同窓会連合会会長の開会の辞ではじまり、退任される教員を代表して濱田嘉昭先生から退任の挨拶がありました。退任される先生方を暖かい拍手でお送りした後、

白井理事長の乾杯で、お祝いと感謝の心で会

場が満たされました。アトラクションとして演奏された、茨城県の郷土芸能であるやんさ太鼓がそれを盛り上げました。



卒業生・修了生にインタビュー



62歳のときに入学しました。当時はまだ会社勤めでしたので、土日の講義だけしか受講できなかったことが大変でした。67歳で退職し、これから勉強に集中しようとしたときに胆管がんを発症、その後はがんと共存しながら勉強し、卒業まで9年もかかってしまいました。特に後半は入退院によりなかなか進まなかったのですが、なんとか卒業に漕ぎつけました。妻や娘が、熱を出しているときに学習センターでの試験についてきてくれるなどのサポートしてくれたお陰です。また病院の先生方も非常に協力的で、試験があるときに外出許可をもらったりしました。今日も外出許可をいただいて点滴を打ちながら来ております。せっかく9年やってきたので、今後はコースを変えて4月から新たに入学します。病気に負けないように頑張りたいです。

伊藤武彦さん(東京多摩学習センター)

今日は本当にありがとうございます。このような立派な式に参加させていただきまして感謝の念に堪えません。1998年に入学し、仕事と家庭がありましたので本当に大変でしたが、卒業まで数単位だとわかってから一生懸命勉強してまいりました。一番苦労したのが語学でした。大学を卒業してから遠ざかっていたの



と、自分が苦手だったこともあって、本当に大変でした。「人間と文化コース」を卒業したので、「社会と産業コース」へ再入学しました。幸運なことに高橋和夫先生の面接授業の抽選に受けまして、楽しい春になりそうです。

櫻井しのぶさん(東京文京学習センター)



ここ数年の目的だった卒業ができて嬉しく思っています。大変だったことは、仕事を終えて疲れて家に帰り、一人で勉強する生活において、モチベーションを維持することでした。そんな中で、出席した面接授業で、同じ境遇の仲間とお互いに励ましあえたことが大きな支えとなりました。今後は少しお休みしてから、再入学したいと考えています。

神毛梓さん(大分学習センター)

3回目の卒業です。病と障がいもちながら10年間学んだことは決して楽ではありませんでしたが、それだけに卒業の喜びは大きく、支えてくださったたくさんの方への感謝の気持ちで一杯です。若いときの学びとは違った「知る喜び」と「学ぶ楽しさ」を知りました。若い方の独創的で斬新なアイデアに関心したり、重い障がいを持ちながらも生き生きと学んでらっしゃる方々の姿に励まされ、知識の習得だけでない多くのことを学ばせていただきました。今後は「社会と産業コース」に再入学し、学び続けるつもりです。



篠崎雅子さん(福岡学習センター北九州サテライトスペース)

卒業できた喜びでいっぱいです。人生の中で結婚したときより嬉しいくらい。がんの宣告を受けたときから勉強を始めたのですが、勉強することで病気が逃げてしまった気がします。これまで協力してくれた家族や周りの方々への感謝を身にしみ感じています。これからは勉強したことを生かして、自分の家の歴史を整理していきたいと考えています。

平松富美子さん(愛知学習センター)



「人間と文化コース」で学びました。入学したときに学長の映像を見せてもらいました。そのときに学長がおっしゃられたのが「なかなか卒業できませんよ」ということでした。ところが私は専門科目を先にたくさん受講してしまい、4年かけて卒業するつもりが3年で達成してしまいました。退職されて趣味で勉強をされる方は、自分の専門以外の科目をたくさんとって、在籍期間いっぱいまで勉強してから卒業するのが良いのではないかと私は思います。そこで私は「心理と教育」に再入学しました。大変だったことは特にはないのですが、最初に見た教科書の厚さに驚いて、自分が若いころにはしなかった予習と復習をしっかりとやりました。これからも年に2回は面接授業に訪れたいと考えています。知らない者同士が学習センターでのイベントを通じて仲良くなるのも素晴らしいことです。

越川一美さん(静岡学習センター浜松サテライトスペース)

これで3回目の卒業になります。いつも卒業するたびに「次をがんばろう」という気持ちになって楽しく学ばせていただいております。卒業研究は大変でしたが、今はそれが喜びに変わっています。

情報コースの全科に再入学いたしました。今度はこれまでよりゆっくり学んで、4回目の卒業を目指したいと考えています。



伊藤邦子さん(青森学習センター)

長い間勉強から離れていたもので、はじめは勉強する姿勢ややり方について心配していました。できるかどうか、ついていけるかどうか、不安でいっぱいでした。でも、ときどき行く学習センターの休憩室や談話室での、学生の皆さんとの対話が心の支えになりました。はじめは知らない者同士でしたが、やっぱり友達ができたことが、勉強を続けられた理由のひとつだと思います。4年で卒業する目標を達成したので、今後は一度ゆっくりしようと思いましたが、今日、ここに来て、皆さんのお話を伺うと、続けられる方が多いので考え直してみようかな、と思っているところです。また認定心理士の資格を取ったので、それを生かしてボランティアで社会の役に立てるように頑張っていきたいと考えています。



廣瀬香代さん(京都学習センター)

就任のごあいさつ

物理学から「もの」の見方や考え方を学ぶ

私の専門は理論物理学で、主に原子核・素粒子についての知識を用いて物質の極限状態についての研究を行ってきました。1980年に名古屋大学で学位を取得後、渡米し、13年間アメリカの大学や研究機関で研究生生活を送りました。1993年に帰国し、1999年からは東大教養学部で物理学の基礎を教えてきました。こうした経験を踏まえて、これからは科学リテラシーとしての物理学

自然と環境 教授 松井 哲男
自然環境科学プログラム



の普及にも力をそそいでいきたいと思っています。

物理学は、いろいろな意味で、自然の最も深奥を極めようとする学問です。その見方や考え方を学ぶことは、われわれのおかれた環境を科学的に見る目を豊かにし、それを改善する道を探る上でも役に立つと思います。どうかよろしくお願いします。

学校の「不思議」探究へ

2015年4月より筑波大学人間系を退職してこちらに就任しました田中統治(とうじ)と申します。専門分野は広く学校教育、狭くはカリキュラムです。学校体験はどなたにとっても人生の大切な思い出ですが、これを相対化して研究の対象とするには一定の方法論が必要です。私の場合は主として教育社会学の方法を用いて学校とカリキュラムの事例研究(ケース・スタディ)を進めてきました。学校研究の第一歩は学校教

心理と教育 教授 田中 統治
人間発達科学プログラム



育の中で生じているありふれた出来事やエピソードを「不思議」なこととして感じるのかと思

います。私も出身の鹿児島で転校と進学を重ねる中で、雰囲気や佇まいが微妙に違う学校の「不思議」を発見した覚えがあります。これを専門用語では「学校文化」(スクール・カルチャー)といいます。これからともに学校の「不思議」を発見する旅へ出かけましょう。

発達途上にある人間の一人として

発達心理学が専門です。受胎から死に至るまでの発達のプロセスには、多くの人に共通する道すじ(発達段階)に加え、個人差や文化差も見られます。私自身、中年期を迎え、発達に対する見方が少し変わってきました。一般の大学では、青年期や乳幼児期に関心を寄せる学生が多いのですが、放送大学では、多様な人生経験を積んだ方々が学んでおられ、成人期や老年期の発達への関心も高いことでしょう。先生方もベテラン揃いで、新

心理と教育 准教授 向田 久美子
人間発達科学プログラム



任教員としては、教えるよりも、学ぶ方が多いと思われます。そのことへの期待と不安、そして責任の重さを感じております。

研究としては、文化と発達の間に関心をもっております。グローバル社会と言われる中で、文化は人間の発達にどのような意味をもつのか、普遍性と固有性の双方の観点から、発達について考えていきたいと思っています。

教養としての理学



岡野 達雄 東京文京学習センター所長(応用物理学)

阿部 憲孝 山口学習センター所長(有機化学)

吉倉 紳一 高知学習センター所長(地質学)

司会

安池 智一 准教授(化学・理論分子科学)



(左から)安池 智一准教授、吉倉 紳一所長、阿部 憲孝所長、岡野 達雄所長

新緑まぶしい五月晴れのもと、放送大学本部に東京文京・山口・高知の各学習センター所長をお招きして、安池智一准教授の司会進行のもと、座談会を開催いたしました。テーマは「教養としての理学」。「理系」の先生たちがお考えになる、教養としての理学(サイエンス)とはどういうものなのか。その魅力や実験の可能性について、お話いただきました。※本文中は敬称略とさせていただきます。

「測る」「観察する」という体験、 「社会との関わり」「地域性」によって サイエンスは身近なものに

安池 本日は、お集まりいただきありがとうございます。早速ですが「教養としての理学」というテーマに沿ってお話させていただきたいと思います。一般の通学制大学には、卒業して就職するための「職業訓練の場」といった側面がありますが、多くの学生が働きながら、あるいはすでに仕事を離れて学ぶ放送大学は、比較的その要素が少ないのが特徴です。そのため、放送大学の学生は「教養として」理学を学びますが、先生方は、学生にどういうものを身につけてもらいたいとお考えでしょうか。

岡野 学習センターに来られる学生の方々を見ると、皆さん多大な熱意をお持ちで、新しい知識を十分に吸収していただけると期待させてくれる人たちばかりです。そのため、学習センターが行う面接授業科目のカリキュラム編成にこそ、学習センターとしての答え—教養として学ぶ理

学の姿があると考えています。面接授業には、放送授業で主任講師の先生が講義された内容を敷衍したり、展開しきれなかったところを穴埋めする学習型と、放送授業とは関係なく行う体験型があると思っています。多くの学生にとって体験型が受け入れやすいようです。私の専門、物理で言えば、「測る」が体験のベースとなります。同じように生物では「観察する」が重要になります。この「測る」「観察する」といった体験を通して自然科学への理解は深まり、より身近な教養としてサイエンスの知識が備わると思います。

阿部 自然科学とは自然現象を対象とした学問で、数学・物理・化学…と体系化されていますが、そのおおもとの本質を理解することが大切です。科学では、公理から定理が導かれる法則性が重視され、帰納と演繹が用いられます。しかし、現代では、そこに情報が加わり、発展と統合がなされ、そして何より「社会との関わり」も求められます。放送授業で特定の領域だけをピンポイントで勉強していると、この「つながり」や「ひろがり」といったものを見失いがちです。そこをカバーする役目が面接授業だと考えており、幅広い分野や、めざましい科学技術



岡野 達雄 所長

学センターが行う面接授業科目のカリキュラム編成にこそ、学習センターとしての答え—教養として学ぶ理

の進歩に負けないための、現役の先生方がまさに今取り組んでいる旬の分野を理解するという形で進めることが大事だと考えます。そうすることで、生きたサイエンスが身に付きます。

吉倉 私は所長を拝命してまだ1カ月。かつて担当した面接授業などの数少ない経験からお話いたします。かねがね放送授業は各分野をあますところなく、かつ最先端のものをうまく取り入れた見事な内容だなと感心しているのですが、学生の方々を見ると、その放送授業に“空疎なるもの”を感じておられる方も少なからずいらっしゃるのではないかと、思うことがあります。それは、学習者と放送授業のレベルの差からくるのかもしれませんが、自分の生活とかけ離れている、という乖離感からくるのかもしれませんが。何れにせよ、その隙間を埋めるのが学習センターのミッションだと思っており、そこを意識した、例えば放送授業の内容を地域に関わるテーマに咀嚼分解などして面接授業が展開できれば、サイエンスはより身近なものになる、と思います。

安池 先生方のお話を伺って、たいへんありがたく思いました。私も本部の教員が作る放送授業を補完してくださっています。放送では学生は「測る」ことはできませんが、面接授業で

実際に「測る」ことで理解は深まります。「社会との関わり」も個別の放送授業の中ではなかなか伝えきれません。そこを一步引いて全体を眺め、放送の足らざる部分を補っていただいています。地域性というお話もありました。物理や私の専門の化学は、基本的に地域性はない学問と言えますが、吉倉先生はご専門の地質学を通して、関係する化学や物理の分野までも地域に引きつけて展開されようとなさっている。学生の学習意欲を高める上でとてもありがたいことだと思います。

吉倉 その「社会との関わり」について、ひとつ。実は、物理・化学・生物は高校普通科の9割以上で開講されているのに、地学はわずか8%です。つまり、日本人の地学リテラシーはとても低い。昨年、広島で土石流災害が起きましたが、その土地の

地質環境や生い立ちが理解されていれば、尊い人命や財産が失われることが軽減できたのではないかと。地学は生活に密着する学問であり、ひいては生活の安心・安全をも担保するものと言えます。その意味で、放送大学の教育を通して地学リテラシーの向上を図り、社会に貢献できたらと考えています。

安池 ありがとうございます。ところで実験の話が出ましたが、各学習センターの実験の状況はいかがですか。規模の大きい東京文京学習センターと地方の学習センターとは異なるとは思いますが…。

実験科目の新設を目指して 望まれる学習センター間、 地元大学との連携

岡野 東京文京学習センターは4年ほど前のリニューアルを機に2つの実験室を有し、ミニマムの実験設備は充分確保されています。1学期におよそ14科目、内訳は物理・化学が3科目ずつ、生物が2科目、残りが家政学の実験です。実験科目を新設したいところですが、それには予算が大きく影響します。物理科目の実験は、30年前に阿部龍蔵・戸田盛和両先生が始められた力学・光学に関する実験を手直しして継続しているものがほとんどです。新しく電磁気学や量子力学の実験科目を設けたいのですが、そのための実験装置を何セットも一挙に揃えるのは費用上大きな負担です。ですから新しい実験科目を増やすには、装置を共同で使用するなどセンター間の連携が欠かせません。そして、新しい実験科目は“学生と一緒に”一から作っていくことができればベストと考えています。私自身、答えが決まっているぬり絵型の実験はあまり興味がわきませんでした。実験を計画したり装置を作ったり、という体験にこそ実験自然科学の醍醐味があります。放送大学には数学・物理にかなり精通されている学生の方々がおられます。ゆくゆく実験科目のTAとなって活躍してほしいという願いを込めて、学生の総合力を結集して、ゼミのような形式で電磁気学の実験科目を作りたいと思います。そして、そういう実践を通してこそ、センターの存在意義は高まるものと考えます。

安池 南関東の各センターには結構な実験設備があるけれども何がどこにあるか分からないという問題



もあります。そのため、私が面接授業に出向く際には簡単なものを自前で用意することが多いです。

岡野 東京文京には、かつてあった東京世田谷学習センターの実験設備が移管されたため、かなりのものがあるにはありますが、どうしても古くなります。世間では今どき売られていないオシロスコープなどもちゃんとあります。ただ、今ある古い設備・機材から新しい実験科目を作るのは難しい。冷蔵庫の中身を使って料理を作るより、レシピを元に材料を買い集めた方がはるかに楽です。現役の実験設備も稼働率はよくありません。使えるものをデータベース化して、全国の学習センターと情報の、そして宅急便等を使っての設備の共有が望まれます。

阿部 山口学習センターでは、既設の実験設備は皆無といった状況ですが、先生方の熱意と創意工夫によって実験は行われております。生井澤先生は東京から段ボール箱に実験装置を入れて山口まで送っておられました。時には、私どもに事前に用意するようにと指示されたものを、例えば「自転車のホイール」を使って回転運動の演示実験をされておられました。元副学長の荻野先生は、日本化学会のマイクロスケール化学実験キットを使っておられたので、そういうものを用意してもらえれば、実験の幅は広がります。ChemBioのようなソフトがあればコンピュータ上での模擬実験も可能です。ただ何サイト使えるかの使用制限の問題が…。

安池 サイトライセンスの問題ですね。



阿部 憲孝 所長

阿部 そう、そこがクリアできればより広範な学生が参加できます。…ほかに、客員教員の稲垣先生はレゴのロボットキットを10体ほど持ち込んで、学生と一緒にコンピュータで動かすという実験をされています。加納先生は、鉱物を持ち込み学生が実際に触ってみる、ということをととても重視しています。また、大学構内の地層を学生と一緒に巡検したり、と。こういうものは、現在行われておりますが、加えて、高校への出前講義レベルのものならいつでもできる訳です。DNAを取り出したり、人工イクラを作ったり。ただ、そういうもの

と、大学レベルのアカデミックな領域とをどう整合させるかの問題は残ります。実験科目新設のお話がありましたが、化学の実験について言

と、大学レベルのアカデミックな領域とをどう整合させるかの問題は残ります。実験科目新設のお話がありましたが、化学の実験について言



えば、厄介な廃液処理の問題が伴います。そのため既存大学の処理施設を使わせていただくといった地元大学との連携も必要です。

工夫次第で 広がる自然科学の世界

安池 高知はいかがでしょう。吉倉先生は研修旅行で“俳句”を使う、というユニークな“実験”をされているとお聞きました。

吉倉 昨年の5月に一泊二日で室戸ジオパークに出かけました。自然に触れながら、学術的に大変貴重な大地の遺産である地質や地形について、そしてこれらに関わる地域の文化・歴史・生態を学ぶ、というもので高知学習センターと同窓会の共催です。そこで、私ども教員は言います。鉱物なり、植物なり、自然の事物を「よく観察しなさい」と。でも、言われた方はどこを見ればよいか分からない。挙げ句には「見る」ではなく「診る」を、と教員はさらに要求します。地球に問題があればそれを解決するのが科学、だから「診る」のだと。でも、なかなか伝わらない。せめてSeeをLookに、さらにObserveへと高めてほしい。そこで用意したのが“俳句”でした。その季節の季語を用いて俳句を詠みなさい、と。すると皆さん、一生懸命に句材を探されます。そして、この花は何という名でどう分布しているのか、この岩石はなぜこんな色をしているのか、と様々な質問をされます。Observeしているのです。そして面白いのは、それぞれの句を披露する句会。同じ事物に触れたのに、見方や感じ方は人それぞれに違う、ということに気づかされるのです。そのことは自分を客体化して見るというメタ認知能力の向上につながります。単に自然の事物に触れるだけではなく、自分の存在や考えていることを別の目で見ることができる。これも高等教育に求められている

もの一つではないか、と考えています。

安池 そう言えば、不思議なことに自然科学者には俳人が多いですね。寺田寅彦、山口青邨、有馬朗人…

吉倉 尾池和夫先生もすばらしい俳人です。自然科学者は自然を切り取ることに長けており、自然への感受性が豊かになるのかもしれませんが。

阿部 山口でも美祿市の秋吉台へ出かけました。石灰岩の形成発達史という地学だけではなく、ラムサール条約に絡めて「水」を、「洞窟こうもり」の生態を、といろいろな分野を一つにして面接授業を行いました。「水」では、いろいろな所の水を、色素（指示薬）を使って硬度を測り、どっちがおいしいか、といった実験を。

安池 そういう授業というのは放送大学ならではのものです。 “俳句”にしても、「水」の実験にしても、そして先ほどの岡野先生の、ぬり絵型にならないよう実験を計画したり装置を作ったり、そこから始めるというお話も、仕掛け…ですね、サイエンスをより身近にするための。

吉倉 仕掛けや工夫を施せば、実験装置のない高知のようなところでも意外と自然科学に触れることはできます。今、『岩石を読み解く』というセミナーを担当しており、毎回違った岩石を教室に持ち込んでは、「この石にはいつ、どこで、どのようにして出来たかという情報が記録されている」という話をしています。岩石の中に化石があれば相対年代が、含まれる鉱物の放射性同位体を調べれば絶対年代が分かります。「どこで」と問うと、皆さん、採取した場所で、と答える。「いいえ、これは過去の赤道付近でできた石」と答えると皆さん驚かれる訳です。古地磁気の情報としてちゃんと記録されているのですよ、と。そこらに転がる1個1個の石に地球の過去を読み解くドラマがあることにとても感動され、自然科学全体に対する興味も湧くようです。年代測定というのはもともと物理の領域です。化石は生物です。そのように地学以外の分野にも関心が向くようになります。こういうことは工夫次第でできる、と思います。

安池 ぬり絵型とならないための工夫の一つとして、実験一辺倒ではなく、座学で咽をカラカラにした上で実験に臨めば、実験の意義はより深まるので

は、と考えています。例えば、分光法を座学で学んだ上で、学生一人ひとりが分光器を作る。波長400～800 mmと言われる可視光線が実際自分にはどこまで見えるか、一人ひとりが実験する。このようにして、自然現象を自分のこととして知ることは、座学は難しい、レベルが違うといった困難を克服させるものだと思います。

岡野 知識があればあるほど後の楽しみは広がる、ということではないでしょうか。教養としてサイエンスを学ぶ、というのは、「知識があればあるほど楽しみは深まり広がる」ことを知ることだと思います。これは文系も理系も同じでしょうが…。

安池 理系の学問は積み上げ型なので、楽しみ方の深まり方は実に大きいと思います。

吉倉 真実は一つでも、切り口とか視点が変わると違った見え方をする、というところに科学の面白みがあります。放送大学の学生の方々は、豊富な経験と多様な知識をお持ちです。だから、



吉倉 紳 所長

一つの知識から幅の広い理解ができる…もっとも適した教育対象者であり学習者であるという気がしますね。

岡野 同感です。今、日本では、科学技術を一般市民へ普及させよう、そのために専門家がかみくだいて直感的に教えようという動きがありますが、受け手の基礎知識を少し上げるだけでギャップはかなり埋まります。放送大学の学生はもちろん、放送授業は日本全国の一般市民も視聴されており、日本全体の科学技術力の底上げにつながっています。

阿部 リテラシーというとコンピュータや語学だけが取り沙汰されますが、サイエンスリテラシーを高めることもとても大切です。

安池 老子は「道は自然に法（のっと）る」と言っています。森羅万象、自然にのっとっている、人間の行くべき道も自然に学べ、と。放送大学では「自然と環境」は小さなコースですが、他のコースの方にも理学の世界に足を踏み入れ自然科学の魅力に触れてもらえれば、と思います。本日はありがとうございました。

「放送大学の学びを生かした私の地域貢献」

放送大学 学生エッセイ コンテスト

エッセイコンテスト実行委員長・同選考委員
放送大学 名誉教授

住田 正樹



2014年度放送大学エッセイコンテスト(第7回)の受賞者が決定いたしましたのでご報告いたします。

今回のテーマは「放送大学の学びを生かした私の地域貢献」でした。時宜にかなったテーマだと思いますが、応募者は思いの外少なく54名(男性34名、女性20名)でした。昨年度の第6回(2013年度)は「未来」というテーマで応募者は104名でしたから応募者数はかなり減少したことになります。しかしそれ以前と比較しますとあまり大きな違いはありません。これまでは、第1回(2008年度)「学びと私の生活」応募者65名、第2回(2009年度)「学びと出会い」52名、第3回(2010年度)「放送大学から広がる世界」84名、第4回(2011年度)「今、放送大学の私に出来ること」37名、第5回(2012年度)「放送大学での学びから得たこと」47名でしたから「未来」というテーマの昨年度が特に多かったということになります。

「地域貢献」活動は、団体や組織の活動として行われていることが多く、個人的な活動としては取り組みにくいところがあります。またそれを「放送大学での学び」と関連づけてというテーマでしたので、書きにくいと思われたのかも知れません。実際、応募作品のなかにはテーマとは関連がないような作品も見られました。

しかし入賞された方々の作品は「地域貢献」を、

それが団体活動や組織活動であれ個人的活動であれ、自身の個人的経験に基づいて具体的に書かれていましたので大変分かりやすく、地域貢献に対する意気込みを感じさせるものでした。

選考は、昨年度に決めました選考基準、すなわち①テーマに沿った内容であるか、②文章全体の構成ができているか、③わかりやすく読みやすい文章か、④テーマについての自分の気持ちや考え方が自分の言葉で表現され、読み手に伝わる内容であるか、という4つの基準に基づいて行われました。選考の結果、次の11名の方々が受賞されました。

受賞者	作品名	学習センター
最優秀賞		
橋爪 文博	放送大学の学びを生かした私の地域貢献	東京文京
優秀賞		
相沢 宏之	主役は住民 提案型の復興まちづくりへ	新潟
三ツ國 全代	ナリジブ	鳥取
三好 信子	卒業研究が繋げてくれた私の地域貢献	山口
佳作		
大野 泰枝	子どもたちに本当の自信を	北海道
岡里 順子	エキスパートの学びで得た知識を地域貢献に向けて	埼玉
尾仲 敏郎	放送大学での学びと自治会活動	姫路SS
平井 正典	「日本語を教える」ということ	大阪
松岡 絵美衣	学びと私の役目	兵庫
森 昭生	地域への私流「ささやか貢献」	佐賀
森戸 秀次	～仲間とともに学ぶ～	京都

※各賞毎の氏名は50音順です。※学習センターは応募時のものです。

講評

最優秀賞「放送大学の学びを生かした私の地域貢献」

東京文京学習センター／橋爪 文博さん

学問は先達の業績の蓄積の上に成り立っているものだから学問をするというのは、そのような先達の問題解明に対する情熱(passion)に触れることだということを放送大学で学んだ、そしてそういった情熱というのは実はボランティア活動を推進していく原動力なのだという内容で、そのことを自身が実際に携わっている文学館でのボランティア活動の体験に基づいて書かれています。非常に奥の深いエッセイです。

優秀賞「主役は住民 提案型の復興まちづくりへ」

新潟学習センター／相沢 宏之さん

中越沖地震で大きな被害を受けた柏崎市の「えんま通り商店街」を放送大学で学んだ「まちづくりエッセンス」を生かしながら復興させていきたい、そしてコミュニティとして将来にわたって定着していけるような「復興まちづくり」にしたい、そのためには生活者である地域住民の主体性が不可欠だという内容で、チャレンジ精神に富んだ、非常に熱意あるエッセイです。

優秀賞「ナリジブ」

鳥取学習センター／三ツ國 全代さん

「ナリジブ」というのは「なりたい自分」ということの略語。精神疾患の

人々と遭遇することが多い仕事のために精神疾患を未然に防ぎたいと日々考えていたが、精神疾患を防ぐためには「ナリジブ」になって自己満足を高め、それを承認してくれる仲間が必要で、そうした輪が広がっていくことによって地域活性化が実現されるのだという思いから地道に実践活動を展開していった経験を綴ったエッセイです。内に秘めた強い意欲を感じさせます。

優秀賞「卒業研究が繋げてくれた私の地域貢献」

山口学習センター／三好 信子さん

福祉作業所でのボランティアに携わっていたことから民生委員を依

頼され、それを機に放送大学に入学して「高齢者の孤独死」について研究し、その研究をもとに「高齢者のネットワークづくり」を推進し、さらに放送大学で学んだ知識を生かす「子育てサロン」を設立させ、また町内の「ふれあいサロン」を立ち上げるというように放送大学での学びが次第に活動の輪を広げていくという内容で、正に学びのモデルといったようなエッセイです。

入選した作品は、放送大学ホームページで読むことができます。
http://www.ouj.ac.jp/hp/o_itiran/essay/

第7回

放送大学
学生エッセイ
コンテスト

最優秀賞受賞作品

放送大学の学びを生かした 私の地域貢献

修士選科生 橋爪 文博
東京文京学習センター



私は、一九九三年の十月より放送大学で、主に人文学、人間の探究コースを学んでいるが、得られた事象、獲得できた知識は誠に大きかった。特に、強く印象深いのは、入学当時、まだ二十歳、言わば大人になったばかりの私にとって、九十歳を超える方々、はたまた自分の親世代との「出会い」は、何とも筆舌に尽くしがたい、「知的興奮」や「人間的理解」を私に与えてくれた。今、こうやってその当時の事を思い浮かべ、数々の特に記憶に残っている出来事、シーンを回想する時、私は、放送大学で出会ったすべての方々へ尊敬と感謝の念を禁じえない。ありがとう、本当にありがとう。私は心の中で何度、そうつぶやいた事だろう。学問とは、その問いに多くの偉大な先人達が挑み、また彼らなりの答えを世に提示してきたが、私は、この放送大学で、一つのある大きな答えを導き出すに至った。それは、学問とは、人と人とのつながり、信頼関係をベースに醸造され、創造されていくものであるという事、そして、それは、過去の知識の蓄積を元に未来へと縦横無尽につながっていくものであるという事。私は、放送大学での足がけ二十年にも及ぶ学生生活の中で、自然にありのままに今書いた学問とは、の問いと答えを発見し導き出していったように思う。少し極端な事を言えば、放送大学とは、私にとって言わば『ドラエモン』のどこでもドアのような存在。つまり何か答え、様々な学問的問い、命題についてはあるが、を導き出してくれる夢のような魔法の城、場所だったのである。私は、この放送大学で体得した思い、言ってみれば、悟りにも似た境地、心情で様々な地域活動に果敢に挑戦し続けている。中でも、同じ一九九三年の開館当初よりのつきあいになるが、「前橋文学館」におけるボランティア活動である。

「I hear and I forget, I see and I remember, I do

and I understand」。これは、ボストン子供博物館のモットー・標語。私

は、この言葉を胸に刻み、前橋文学館でボランティア活動を始めた。具体的な成果としては、小学生対象の「朔太郎詩の絵の展覧会」の定例開催。文学館協議会の発足、研究紀要の発行が挙げられる。これらは、先程、かかげたボストン子供博物館のモットーをより具現化する為に行ったものであり、来館者は、もとより、運営主体の自治体、関係者、教育者からも高い評価を博した。つまり、いわゆる「体験型」。何かを発信者が一方的に押しつけるように伝えるのではなく、共に何かを共有しながら、さらに深く一緒に体験しながら、学びとろうという形式が大変有効であるという事の証明でもあった。私は、放送大学で学びつちかわれた、一つの物事、学問領域を深く探究するために、知識だけに頼ることなく仲間とフィールドワークをしながら時に、議論を重ねながら自らの実体験として思索、研究していくという姿勢が、この文学館でのボランティア活動に大変効果的に生かされていった、と確信している。もっと極言していえば、私にとっては放送大学での学びも、文学館でのボランティア活動も、「私個人」の領域だけに止まるものではないのだという事である。「私が、私の、自分だけの学び。」であるなら、他者に共感を与え何か大きな学問的かつ哲学的な命題、解答を用意する事は不可能に近い。しかし、自らの言わばカラを打ち破って何かを体験し、何かを求め、何かを他者に向かって誠実に発信しようとする時、私は大きな奇跡のような力はたらくと感じる。(以下略)

全文は放送大学ホームページに掲載しています。
http://www.ouj.ac.jp/hp/o_itiran/essay/

辺境から世界を見る

私の専門は文化人類学ですが、おもな研究フィールドは、アンデス（ペルー）、ヒマラヤ（ネパール、ブータン、インド、中国チベット自治区）、モンゴルです。アンデスではアルパカ・リヤマを飼う牧民（先住民）の調査を1978年から続けています。ヒマラヤでは、ヤクなどを飼うチベット系牧民や森を遊動する狩猟民ラウテ、モンゴルでは、草原・乾燥地域で5種の家畜を飼う遊牧民や、北部の山岳タイガ地域のトナカイ遊牧民などを研究対象としてきました。私の関心は、高所・乾燥地域など、農耕が不可能な極所・辺境地域に住む牧畜民の生活や文化です。そうした辺境地域も外の世界と無縁ではなく、たとえば、ヒマラヤは国境地域（そして国境紛争地域）です。モンゴルは90年代に社会主義から民主主義・市場経済に転換しました。辺境から世界の動きがより先鋭的に眺望できます。昨年これまでの研究をまとめた『遊牧・移牧・定牧—モンゴル、チベット、ヒマラヤ、アンデスのフィールドから』（ナカニシヤ出版）を刊行しました。他分野との共同研究も多く、インド・ラ



モンゴルの最北部の山岳タイガ地域。トナカイ遊牧民の調査の帰路。左端は共同研究者スフバートル氏（地理学者）、右端は案内の国境警備隊員。

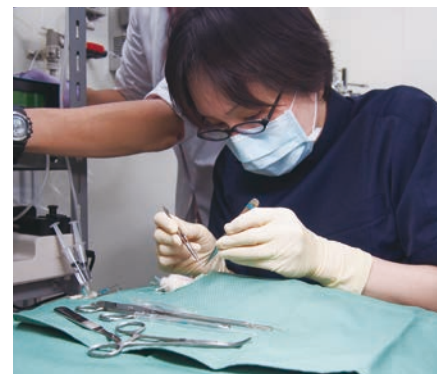
ダック地方などで医学・栄養学等の研究者（京都大学）と高所における生活習慣病の増加とその社会的背景などについて研究しています。それに関連した特別講義『ヒマラヤ高所の人々の生活と健康—高所適応とグローバル化による攪乱』が6月28日に放映されます。また、モンゴル国立大学・名古屋大学と共同で「レジリエントな都市の構想」プロジェクトもはじめました。それに関連した著書『草原と都市—変わりゆくモンゴル』（風媒社、共編著）を刊行したところです。

筋の謎に迫る

サルコペニアやロコモティブシンドロームが話題となることが増え、健康な生活を送るための筋の役割が注目されるようになってきました。加齢や不活動によって筋が萎縮することは広く知られていますが、これまであまり注目されていなかった横隔膜の萎縮が私の現在の研究テーマです。横隔膜は手足の筋と同じ骨格筋に分類されますが、不活動に対する応答は随分異なっていて、あっという間に萎縮が進みます。たとえば、ギプス固定やベッドレストなどにより、脚の筋は1週間から10日ほどで萎縮します。ところが横隔膜は、人工呼吸器の使用などで12時間で萎縮してしまいます。横隔膜が萎縮してしまうと人工呼吸器を外すことが困難になり、その後の生活の質を著しく低下させることになってしまいます。これは、事故や病気から命を救うために使用した人工呼吸器が、その後の生活に影響を落としてしまうことを意味します。なぜ横隔膜の萎縮

はこんなにも速く進むのか、そのメカニズムを明らかにしたいと考えています。

私の専門分野である運動



生理学では、トレーニングだけでなく、不活動に対するからだの応答も重要な研究テーマです。私の主な研究手法は実験動物を用いるもので、ゼミ生に同じような研究手法やテーマに取り組んでいる人はいませんが、「からだ」「健康」「運動」を主なキーワードとして、みなさん様々な角度から熱心に研究に取り組んでいます。いわゆる体育の研究室のイメージとは違うと思いますが、楽しいものです。

宮城学習センター

宮城県仙台市青葉区片平2丁目1-1(東北大学片平キャンパス内) 〒980-8577
JR仙台駅(西口)・仙台市地下鉄(南1番出口)から徒歩約15分 電話:022-224-0651

約2000名が所属する宮城学習センターでは、年間約70科目の面接授業を開設していますが、「大学らしい」授業をそろえることを心掛けています。授業を聞きっぱなしではなく、努力して内容を理解し、レポート提出



鮮やかな赤レンガと緑の外観

が必要な科目も多いのですが、達成したときの満足度は何物にも替えがたいと思います。これを、他の公開講座やカルチャーセンターとは一味違う「菌ごたえのある教養」

と、私たちは呼んでいます。これらのうちで人気のある科目、たとえば「美術史」などについては、シリーズ化して続けています。一方、「初歩からのパソコン」「日本語表現法」など、勉強の基礎体力をつけるための科目にも力を入れています。特にパソコンとインターネット利用については、パソコンサークルによる講習会(週2日)や客員教員による個別指導・相談も行っています。

宮城学習センターの行事として特色のあるのは、県内各地で開催している“放送大学の集い”でしょうか。客員教員の先生方のミニ講義と懇談を行います。在学生や卒業生だけでなく、一般市民の皆さんにも参加を呼びかけて交流を図っています。



大盛況の公開講演会

なお、宮城学習センターの建物は、1923年(大正12年)に旧制東北帝国大学理学部生物学教室として建造され、永年の風雪にも、また東日本大震災にも耐えてきました。東北大学で(もちろん放送大学でも)最も古い鉄筋コンクリート造りの、美しい歴史的建造物です。JR仙台駅から徒歩15分の至近距離にありますから、観光もかねてお訪ね下さい。

三重学習センター

三重県津市一身田上津部田1234 三重県総合文化センター内 生涯学習センター棟4階 〒514-0061
津駅(近鉄名古屋線・JR紀勢本線・伊勢鉄道)西口下車 電話:059-233-1170

三重学習センターは、三重県津市の三重県文化会館・生涯学習センター・男女共同参画センター(フレんテみ



学習センター外観

え)・県立図書館などから構成される複合文化施設「三重県総合文化センター」内にあります。近くには昨年オープンした三重県総合博物館(MieMu:みえむ)、三重県立美術館もあり、このような恵まれた学習環境のもとで幅広い年齢層や様々な職業をもった約950名の方が、学ぶ喜びを感じながらそれぞれの目的を持って熱心に学習に励まれています。

開設20周年を迎えた昨年は4月に「三重同窓会」が設立されるとともに、念願であった「学生談話室」も8月から運用を開始し、学習の合間の休憩・歓談等にご利用いただいています。年1回の学生研修旅行をはじめ、教職員と学生相互の交流も活発で、「アートのひろ

ば」、「歩こう会」、「古典文学研究会」、「気軽に英語を!」、「談風会」、「中国文化を語る会」、「自然に語らう〜古文書に親しむ会〜」の7つのサークルが毎月1回程度、年齢や職業の枠を超えて活動を行い、豊かな学びの機会が広がっています。

また、三重学習センターでは所長をはじめ各専門分野で活躍する著名な6名の客員教員がそれぞれの専門性を活かして、面接授業・セミナー・公開講演会を開講しています。さらに、毎週1回各客員教員との学習相談日を設けるなど、学生の皆さんの高い学習意欲にこたえるべく、教職員一同チームワークを発揮し、きめ細やかな学習支援を行っています。入学相談も常時行っていますので、イベント参加等で三重県総合文化センターにお越しの際にはぜひお立ち寄りください。



平成26年度学生研修旅行

はじめての気象学 ('15) 基礎科目

筑波大学教授
(放送大学客員教授) **田中 博**

東京大学准教授
(放送大学客員准教授) **伊賀 啓太**

お天気の科学としての気象学、そして、気象の統計的平均としての気候学は、大気全般の基礎科学として大気科学と呼ばれています。大気現象を支配している太陽放射、地球から宇宙に向けて生じる地球放射、南北の温度差で生じる中緯度の偏西風とジェット気流、熱帯に見られる貿易風やモンスーン循環などの大気大循環について説明し、その循環を駆動する気圧と風の関係や地球の自転の効果を学びます。また、私たちにとって身近な雲と降水、積乱雲や雷、竜巻、ヒートアイランド



田中 博
客員教授



伊賀 啓太
客員准教授

現象や温帯低気圧などについても解説します。さらに、地球温暖化の問題や気候変動、成層圏のオゾンホールの問題などの地球環境問題に対しても解説します。

気象学の理解には、基本的な物理学、数学、化学の知識が必要ですが、極力、難解な数式は用いずに気象学の解説を試みます。初歩的な専門用語を用いるときには、その定義を丁寧に説明してから用いるようにしています。

日本の近現代 ('15) 共通科目

創価大学教授
(放送大学客員教授) **季武 嘉也**

日本の近現代の出発点はペリー来航であり明治維新でした。それ以来、日本は急速な進歩と発展を遂げてきましたが、それを一国民の視線からみれば、目まぐるしく変化し続ける非常に不安定な環境の中で、自らの生活をいかにして安定させ改善するか、という日々の小さな努力の堆積の結果でした。本科目ではこのような観点から、一般の人々がどこに住み、どのような職業に就き、そしてどのような考えに基づいて生活してきたのか、という庶民レベルの目線から近現代社会を概説します。なかでも、人々と地



季武 嘉也
客員教授

域の関わり方に焦点を当てます。近現代では、先祖伝来の土地に定住し続ける人もいれば、職を求めて都市さらには海外に移住する人もいましたが、いずれにしても安住のために地域などのコミュニティと関わることが普通でした。現在、農村の過疎、都市のシャッター街、あるいは家族の在り方が重要な社会問題となっていますが、これらに対処するためにも、一度過去を振り返って考え直すことも有益ではないでしょうか。

社会調査の基礎 ('15) 共通科目

放送大学准教授
(社会と産業) **北川 由紀彦**

日本大学准教授
(放送大学客員准教授) **山北 輝裕**

社会調査は、社会の複雑さを前提としたうえで、社会の状態や仕組みを少しでも正確に把握するために編み出されてきた社会科学上の“道具”です。他のさまざまな道具がそうであるのと同じく、社会調査という道具にも様々な種類があり、それぞれに長所と短所があります。道具は、正しい使い方を知って初めて有効に使うことができますし、誤った使い方をしてしまうと信頼性に乏しい結果しか得られません。

この科目では社会調査の基本的な考え方、様々な調



北川 由紀彦
准教授



山北 輝裕
客員准教授

査方法とそれぞれの長所や短所、限界などについて学び、社会調査を自ら行うとき、あるいは既存の社会調査の結果を読むときに、どのようなことに注意をすればよいのかを判断する力を身につけることを目標としています。社会調査全般に関する基礎的な科目であることを重視して、できるだけわかりやすく、また、統計的な調査だけでなくフィールドワークやインタビューなどの質的な調査についても論じていますので、ぜひ受講してみてください。

高齢期の生活と福祉（'15）

専門
科目

放送大学教授
(生活と福祉) 山田 知子



山田
知子
教授

この科目に込めた思いは、一言でいうと「高齢者は一色ではない」ということです。多様な人生を歩んできた人々を高齢者と一括し一括りにしてはいけないということ。子どもや壮年期にある人々が様々な思いを抱いて日々の生活を送っているのと同様に高齢の人々も同じなのだ。

前半は多様な高齢期の生活実態を経済や労働、家族といった面から統計資料を中心に描きました。豊かで家族がいる高齢者ばかりではないことを知ってほしいと思います。後半は、これまでの高齢者福祉施策の展開や介護保険制度を紹介しながら、これから高齢者の生活支援の政

策がどう変貌していくのかを考えました。さらに人材の養成や全国に広がる高齢者自身のまちづくりの活動についても触れました。すべてのテーマを網羅しているわけではありませんが、職場や地域でこの科目を素材にして高齢期のあり方、社会システムのあるべき姿を議論していただけたらと思います。高齢者福祉政策は一部の保健や医療、福祉の専門家、行政官によってのみつくられるものではありません。この科目がきっかけとなって、高齢者自身や家族、多くの市民が参画する高齢期を豊かにする活動や運動につながっていったらとてもうれしいです。

乳幼児の保育・教育（'15）

専門
科目

放送大学准教授
(心理と教育) 岡崎 友典 埼玉学園大学教授
(放送大学客員教授) 梅澤 実



岡崎
友典
准教授



梅澤
実
客員教授

乳幼児を育てることの意味を問い直し、乳幼児が生活する主な場所としての家庭と、保育所や幼稚園そして地域社会の存在意義を確認するとともに、「保育」、「教育」の基本概念を明らかにします。そのうえで、乳幼児の発達的特徴とその歴史的展開と現状をふまえ、具体的場面での指導・援助のための方法原理を、「環境を通しての保育・教育」、「遊びを通しての保育・教育」、「言葉の発達」、「表現活動」、また「児童文学」、「多文化共生」といった側面から学びます。保育・教育の専門

職者が、乳幼児の指導をより豊にするための指導方法を学ぶとともに、乳幼児にかかわる父母・保護者、地域住民が、次世代を担う人材の養成するために、専門職者と連携・協力する態勢を作ることの必要性についても学びます。また、今日的な政策課題としての「子育て支援・ファミリー・サポート」のあり方や、学校教育と就学前教育の関連についても、「幼・小の接続」といった視点から考察します。

ヨーロッパの歴史Ⅱ（'15）

専門
科目

放送大学教授
(人間と文化) 草光 俊雄 津田塾大学准教授
(放送大学客員准教授) 菅 靖子



草光
俊雄
教授



菅
靖子
客員准教授

この授業で試みたことは、ひとつのテーマをいろいろ掘り下げることでヨーロッパの歴史を見ていくことが出来るのだ、ということを学生の皆さんに実践していただいたかった、という一点につきまします。そうすることで歴史を学ぶ喜びや(わたしたちはとても楽しんでこの授業を作りました。それは放送授業からにじみ出ていると思います)その奥深さを体験できると思ったからです。植物をキーワードにするようなヨーロッパの姿が浮かびあがってくる

か、皆さんも楽しんで勉強して頂きたいと思います。いざ作ってみると15回ではとても語りきることができないテーマでした。もっとあれもこれも詰め込みたかったな、というのが作り終えた後の感想です。それは皆さんにやって頂きたいと思います。こういうことはどうなんだろう、といった疑問や好奇心をぜひ持ちながら授業を受けて下さい。そしてこの授業をきっかけにしていろいろ調べて下さい。それが大学での勉強です。

Webのしくみと応用 ('15) 専門科目

放送大学准教授 (情報) **森本 容介**



森本 容介
准教授

今では当たり前のように使っているWebは、文書を公開するためのシステムとして、25年ほど前に登場しました。Webを使えば、低コストで世界中の利用者に向けて情報発信が行え、逆に、世界中の様々な情報を瞬時に手に入れることができます。現在はそれだけではなく、買い物、交流、銀行取引など、便利なサービスの提供にWebが使われています。

これまで仕組みが分からずにWebを使ってきた方は、この科目を難しそう、または、せっかく覚えてもすぐに役に

立たなくなりそうとを感じるかもしれません。Webの進歩はめまぐるしく、次々と新しい技術やサービスが登場しますが、Webの仕組みそのものは、実は昔からあまり変わっていません。この基礎の部分を中心に学びます。後半では、Webを応用したサービスの話題も扱っています。

仕組みを知らなくてもWebは便利に使うことができますが、知っているトラブルに対応できたり、より安全に利用できるようになります。Webの裏側を覗いてみませんか。

量子と統計の物理 ('15) 専門科目

東京大学名誉教授 (放送大学客員教授) **米谷 民明** 放送大学教授 (自然と環境) **岸根 順一郎**



米谷 民明
客員教授



岸根 順一郎
教授

本科目は、「力と運動の物理'13」、「場と時間空間の物理'14」に続く物理専門科目の第3部です。第1部、第2部にあたる先行2科目では、力と運動と電磁場の法則、それらの応用、時間空間の法則としての相対性理論を学ぶことを通じ、物理学の基礎概念と数学的方法論を身につけていただくのが目標でした。そこでは主に私達に親しみ深いマクロな自然を扱いました。本科目では、これらの考え方や数学的方法をさらに発展させ、原子やそれを構成する素粒子を支配するミクロの世界に

も分け入り、ミクロからマクロに渡る広大なスケールにおける物理の世界の探求へと皆さんを招待します。表題の「量子」と「統計」は、この世界を支配する新たな物理法則における飛躍と、それに基づき現実の自然を理解するための方法論を象徴しています。関連する豊富な題材を取り上げ、最新のトピックスにもつながる内容を盛り込みますので、第1部、第2部を履修した意欲的な学生さんは是非受講してください。

多様なキャリアを考える ('15) 総合科目

放送大学教授 (社会と産業) **道幸 哲也** 放送大学教授 (社会と産業) **原田 順子**



道幸 哲也
教授



原田 順子
教授

キャリアとはなにか。中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月31日)は、「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねが、「キャリア」の意味するところである。」と広く定義しています。このキャリアについては、近時学校教育においてキャリア教育重視の立場から種々の試みがなされ、また就活との関連でも重視されています。

「多様なキャリアを考える」で

は、キャリアを職業キャリアに限定せず幅広くとらえ、生き方の問題として論じています。具体的内容は、ライフキャリアを含むキャリア論全般と職業キャリアに二分され、後者の職業キャリアについても、経済的側面、経営的側面、法的側面と多彩なアプローチで論じています。

この講義が、自分や家族のキャリア設計に役立つこととともに社会のあり方を考える一助となることを期待しています。

スポーツ・健康医科学（'15）

順天堂大学名誉教授
(放送大学客員教授) 河合 祥雄



河合 祥雄
客員教授

近代スポーツは、西洋、19世紀の英国にその源を発しています。その昔、スポーツは特定の階層の人々に限定されていました。産業革命以降、社会状況の変化などにより、「スポーツ」はエリートが行う「競技」から、一般の人が人生の楽しみとして行う「身体文化」に変化してきました。現在日本では、日常生活での運動量の減少、「食の米国化」を背景として、各種の生活習慣関連病が急増しています。少子高齢化の進行するなか、健康に生き、健康に老いる社会を作り上

げることが我々の理想でもあります。運動・スポーツは、二次予防、一次予防を目的とした強力な健康獲得・健康増進の手段として再認識されています。健康スポーツの振興・発展は社会的な要請ともいえます。このスポーツと健康に関わる社会的認識の深化に対応し、本講義では、小児から高齢者まで、アスリートから障害を持つ方、幅の広い対象と、幅の広い分野を対象としています。

新時代の社会教育（'15）

青山学院大学教授
(放送大学客員教授) 鈴木 眞理



鈴木 眞理
客員教授

教育というと、学校で行われているものしか思いつかないということが普通です。『〇〇の教科書』というようなハウ・ツー本もよく見られますが、これも、学習と学校とが強く結びつけられていることを表しているものだと思います。社会教育という教育が存在しているのだ、ということが、まずこの科目で強調したいことです。そして、その社会教育には、さまざまな課題があるということを認識していただくことがめざされています。

大学院科目なのですが、基本を大切にしながらの

解説を心がけ、さらに毎回、実践家や研究者をゲストとして招いて、さまざまな情報・考え方に接してもらえるような工夫をしています。社会教育というものが、画一的に行われているのではなく、多様に存在し、さらに、関係者がさまざまな創意工夫をして貢献しているという姿を少しでも紹介したいと思っています。それが、新しい形の社会教育につながればいいと思います。

数理科学（'15）—離散モデル—

放送大学教授
(自然と環境) 石崎 克也



石崎 克也
教授

季節が過ぎるごとに、年を追うごとに、木々が枝を伸ばし、葉をつけるように、皆さんの学びの情熱はどんどん広がってきたと思います。木々が大きくなればなるほど、興味の対象も広がってきているでしょう。一方で、大学院での専門的な知識の探求は、多くの興味の対象の中からいくつかを選択して掘り下げていくことを要求してきます。

「数理科学」という言葉はかなり幅広い意味があると思います。この講義では、数理科学の中から離散モデルを取りあげて皆さんと学んでいきます。たとえば数列を解

に持つような漸化式、差分方程式のような関数方程式、外力を含まない作用の反復合成などを中心に取り上げます。前半部分では、実数を変数にもつ関数、実関数、を中心に議論を進め、後半では複素数を変数にもつ関数、複素関数を取り扱います。

この講義を通して、皆さんが、この大きな研究対象の中から何を探求したいのかを明らかにしていけることを期待しております。

学生募集—教養学部学生及び大学院修士選科生・修士科目生

広報課・学生課

2015年度第2学期の学生募集を以下のとおり行います。

	第1回募集	第2回募集
出願期間	2015年6月15日(月)～2015年8月31日(月)	2015年9月1日(火)～2015年9月20日(日)
可否通知等	2015年6月下旬～2015年9月下旬	
学費の納入	2015年6月下旬～2015年9月中旬	2015年9月中旬～2015年10月上旬
入学許可通知	2015年7月上旬～2015年10月中旬	
印刷教材等の配送	2015年8月下旬～2015年10月中旬	
授業開始	2015年10月1日(木)	

※くわしいスケジュールは学生募集要項をご確認ください。 ※入学生の面接授業登録については、学生募集要項P28をご確認ください。

2015年9月末をもって学籍が切れる学生の方で、2015年度第2学期以降も引き続き学修を希望される場合は、改めて入学手続きが必要となりますが、入学科が割引になります。

継続入学手続きがシステムWAKABAからできます。

システムWAKABA > ログイン > 継続入学申請

放送大学に関心があるご友人、ご親戚他お知り合いの方にも、この機会にぜひ本学についてご紹介くださり、入学をお薦めいただきますようお願い申し上げます。

大学院修士全科生及び博士全科生 募集

教務課

放送大学大学院では、2016年度修士全科生及び博士全科生の学生募集を以下のとおり行います。

	修士全科生	博士全科生
募集人員	500名	10名
出願期間	2015年8月15日(土)～2015年8月31日(月)(必着)	
第一次選考(筆記試験)	2015年10月4日(日)	
第一次選考可否通知	2015年10月30日(金)発送	
第二次選考(面接試問)	2015年11月21日(土)または 2015年11月22日(日)	2015年11月15日(日)
可否通知等	2015年12月11日(金)発送	
学費の納入	2016年3月上旬～2016年3月下旬	
2016年度授業開始	2016年4月1日(金)	

※詳細は、6月中旬配布予定の学生募集要項をご確認ください。

第5回(2014年度)放送大学叢書感想文コンクールの審査結果について

教務課

第5回(2014年度)の放送大学叢書感想文コンクールには27名の方から応募がありました。多数のご応募、ありがとうございました。7名の審査委員による厳正な審査を経て、受賞作を次のように決定しましたのでお知らせ致します。

佳作:黒澤 理絵さん 作品名:建築を愛するようになれる本 (対象叢書「建築を愛する人の十二章」)

佳作:久保 智さん 作品名:認知と自己表現 (対象叢書「くころ」で視る・知る・理解する」)

編集後記

「さくら ひらひら 舞い降りて落ちて 揺れる想いのたけを 抱きしめた君と 春に 願いし あの夢は 今も見えているよ さくら 舞い散る」

ひらひらと、目黒川に舞い落ちては川面を染めていく桜を見つめながら、口ずさんでいたのは、いきものがかりのSAKURA。

学位記を手に放送大学での学びを終えた人。入学許可証を手に新たに学びを始める人。揺れる想いをそれぞれに抱きながら、一人ひとりの置かれた場所で新たな歩みを始めているにちがいない。たゆたう無数の花びらが大海を目指して流れていくように、いかなる場所であれ、思い願ったそれぞれの目当てを忘れずに歩みを続けて欲しいと、手の中で仄かに香る花びらをほろ酔い気分で愛でながら願う、今年のSAKURAである。(編集委員・井出訓)

ご意見やご感想をお聞かせください。メールアドレス editor@ouj.ac.jp

放送大学通信 オン・エア 編集委員(2015年度)

- | | | |
|--------|-----|--------|
| 委員長 | 教授 | 岸根 順一郎 |
| 委員 | 教授 | 井出 訓 |
| | 教授 | 御厨 貴 |
| | 教授 | 島内 裕子 |
| | 准教授 | 岡崎 友典 |
| | 准教授 | 芝崎 順司 |
| | 准教授 | 安池 智一 |
| オブザーバー | 副学長 | 小寺山 亘 |
| 編集事務担当 | | 総務部広報課 |



http://www.ouj.ac.jp/ ISSN 1343-3369